

## 明 細 書

### 棒状化粧料繰り出し容器

### 技術分野

- [0001] 本発明は、口紅、リップクリーム、スティックアイシャドー、スティックファンデーション等の棒状化粧料を気密に収容できる棒状化粧料繰り出し容器に関する。

### 背景技術

- [0002] 口紅等の棒状化粧料を収容した棒状化粧料繰り出し容器は、一般に外筒体の内側に抜け止めした収納筒体を外筒体に対して回動自在に設け、外筒体と収納筒体とを相対的に回動させることにより、収納筒体内に移動自在に設けられた受皿体を移動させて、繰り出し容器から棒状化粧料を突出、後退させていた。
- [0003] 繰り出し容器には、内部に収容した棒状化粧料の乾燥を防止するため気密性を備えたものも知られている。従来の気密性を備えた容器を図4に示す。この容器は、収納筒体41の上部開口面42に嵌合する内キャップ43を、外筒体44に着脱自在に設けられた蓋筒体45の内面に設け、蓋筒体45を外筒体44に嵌合すると内キャップ43により収納筒体41内を密閉し、口紅46を乾燥等から保護していた。

特許文献1:特開2001-286336号公報

### 発明の開示

### 発明が解決しようとする課題

- [0004] しかしながら上記容器のように、収納筒体41の上部開口面42を内キャップ43等の気密用蓋体で覆って密閉状態にすると、蓋筒体45を外筒体44から引き上げたとき内キャップ43も収納筒体41に対して引き上げられることから収納筒体41の内部に負圧が生じる。かかる負圧は、収納筒体41の内部に収容された口紅46の上面に生じるので、口紅46を受皿体47から引き上げる方向に作用し、かかる引き上げ力が口紅46に繰り返して作用すると、内キャップ43の内面に口紅46が接触する、いわゆる天付きや、口紅46が折損することがあった。
- [0005] また内キャップ43は蓋筒体45と収納筒体41とを嵌合させるので、蓋筒体45と外筒体44とを相対的に回転させると収納筒体41が外筒体44に対して回転してしまい、口

紅46が容器内で上昇し、口紅46の上面を蓋筒体45の天井面内側、すなわち内キャップ43の内面に接触させてしまうことがあった。

- [0006] 本発明は、口紅等の化粧料を気密に収容した繰り出し容器において、化粧料の折損を発生させず、また蓋筒体の天井面内側に口紅の上面を接触させることのない棒状化粧料繰り出し容器を提供することを目的とする。

#### 課題を解決するための手段

- [0007] 本発明は上記課題を解消すべく、棒状化粧料繰り出し容器を次のように構成した。
- [0008] 1. 外筒体と、外筒体に着脱自在に嵌合する蓋筒体と、外筒体の内側に外筒体に対して回動自在に設けられた収納筒体と、収納筒体内に軸方向に移動自在に設けられ、収納筒体と外筒体との相対回転により収納筒体より突出、後退される化粧料とからなる棒状化粧料繰り出し容器において、蓋筒体の内面に、外筒体と気密に嵌合する気密用蓋体を備えることとした。
- [0009] 2. 1に記載の棒状化粧料繰り出し容器において、装着筒体の上部外周面に、気密用筒体の下端外周面を押圧する環状突条を設け、かつ気密用筒体の下端外周面と蓋筒体内面との間に気密用筒体下端部の変形代としての間隙を設けた。
- [0010] 3. 1または2に記載の棒状化粧料繰り出し容器において、外筒体と収納筒体との回動動作により棒状化粧料と一体に収納筒体内を軸方向に移動する受皿体を有し、収納筒体内で最下端に配置した該受皿体の上部近傍と等しい高さに環状突条を形成した。
- [0011] 4. 1から3のいずれかに記載の棒状化粧料繰り出し容器において、装着筒体の内方に、収納筒体の外側面に摺動自在でかつ気密に接触するシール筒体を組み付けた。

#### 発明の効果

- [0012] 本発明は、上記構成となっているので、以下に示す効果を有している。
- [0013] 蓋筒体を外したときに気密用筒体が装着筒体から外れるため収納筒体の内部に大きな負圧が発生せず、負圧の発生を原因とした化粧料の折損を生じさせない。また外筒体と蓋筒体とが相対回転しても収納筒体と外筒体との間での回転は起こらないため、容器内部で化粧料が移動することがなく、蓋筒体の天井内面に口紅等の化粧

料が接触しない。

[0014] 気密用筒体の下端が、装着筒体の環状突条により外方に向けて押圧され、装着筒体と蓋筒体に密着されるので、繰り出し容器内部の気密を確実に保持できる。

[0015] 気密用筒体の嵌合位置が受皿体の上部とほぼ等しい高さ位置にあるため、蓋筒体を引き抜いた際の収納筒体内に発生する負圧を低減させ、化粧料の折損を低減できる。

[0016] シール筒体により容器の気密性を高め、化粧料の乾燥を防止できる。

#### 図面の簡単な説明

[0017] [図1]本発明にかかる棒状化粧料繰り出し容器を示す全体縦断面図である。

[図2]図1に示した棒状化粧料繰り出し容器の部分拡大断面図である。

[図3]棒状化粧料繰り出し容器を示す分解斜視図である。

[図4]従来例を示す斜視図である。

#### 符号の説明

- [0018]
- 1 容器
  - 2 外筒体
  - 3 蓋筒体
  - 4 収納筒体
  - 5 気密用筒体
  - 6 受皿体
  - 7 装着筒体
  - 8 シール筒体
  - 9 段部
  - 10 外装筒
  - 11 螺旋筒
  - 12 螺旋溝
  - 13 間隙
  - 14 環状突条
  - 17 ガイド縦孔

## 21 螺合突片

K 口紅

## 発明を実施するための最良の形態

- [0019] 本発明にかかる繰り出し容器の実施形態を、図面を参照しながら説明する。
- [0020] 棒状化粧料繰り出し容器1(以下、容器1とする)は、図1に示すように外筒体2と、外筒体2に着脱自在に嵌合する蓋筒体3と、外筒体2の内側に回動自在に設けられた収納筒体4と、収納筒体4内に昇降自在に設けられた受皿体6と、受皿体6に固定されている化粧料としての口紅K等から構成されている。
- [0021] 蓋筒体3は図3に示すように有蓋円筒状で、内面に有蓋円筒状の気密用筒体5が一体に取り付けてある。気密用筒体5はゴムや合成樹脂等の弾性体からなり、下部外周には図2に示すように縮径してあり、蓋筒体3の内面との間に間隙13が形成されている。
- [0022] 外筒体2は、外装筒10と、外装筒10の内側に回動不能に固着してある螺旋筒11と、装着筒体7等からなり、螺旋筒11の内側に収納筒体4が抜け止めされた状態で回動自在に設けられている。外装筒10の底部はシール材(図示せず。)を貼るなどして封鎖してある。
- [0023] 装着筒体7は円筒状で、外装筒10の上端に回動不能に一体に取り付けてある。装着筒体7はほぼ中央に外方に突出した段部9を備え、段部9より下部が外装筒10の内面に一体に嵌合し、段部9より上部が蓋筒体3の下端内面に嵌合するように外方に湾曲しているとともに更に上端直下に外方に向けて突出した環状突条14が形成されている。
- [0024] 装着筒体7の内側には、シール筒体8が回転不能に気密に取り付けられている。シール筒体8は円筒状で、弾性部材からなり、上部内面が収納筒体4の外側面に気密で、かつ摺動可能に接触している。
- [0025] 螺旋筒11には、内面に2条の螺旋溝12が形成してある。尚、螺旋溝12の数は2条でなくともよい。
- [0026] 収納筒体4は、螺旋筒11の内側に螺旋筒11に対して回動自在に設けられ、側面には中心軸を挟んで対向した2本のガイド縦孔17が軸心と平行に収納筒体4のほぼ

中央部分まで形成してある。

- [0027] 収納筒体4の内側には、口紅Kを固定した受皿体6が摺動自在に設けてあり、受皿体6の外方に2箇所形成された螺合突片21がガイド縦孔17を貫通し螺旋溝12内に噛み合わされている。尚、螺合突片21は2箇所でなく、螺旋溝12の条数に対応して設けられていればよい。
- [0028] 次に棒状化粧料繰り出し容器1の作用について説明する。
- [0029] 蓋筒体3を外筒体2に組み付けると、蓋筒体3の下端内面が装着筒体7の外周に嵌合するとともに、気密用筒体5が装着筒体7の上部外周に嵌合する。更に気密用筒体5と蓋筒体3との間に間隙13が形成されているので、装着筒体7に形成された環状突条14が気密用筒体5を内方から外方に向けて押圧変形し、装着筒体7と気密用筒体5が密着する。
- [0030] またシール筒体8が装着筒体7と収納筒体4との間を気密に保持するので、容器1の内部、すなわち口紅Kの収納部分が気密に保持され、収納筒体4内に収容された口紅Kが乾燥等から保護される。
- [0031] また蓋筒体3は気密用筒体5を介して外筒体2と嵌合し、収納筒体4と嵌合していない。したがってかかる状態で、外筒体2と蓋筒体3とを相対的に回動させても収納筒体4は回動せず、保管中に誤って蓋筒体3を回転させても、収納筒体4の内部で口紅Kが移動せず、口紅Kの上端が蓋筒体3、すなわち気密用筒体5の天井内面に接触する、いわゆる天付きを生じさせない。
- [0032] 口紅Kを使用するため蓋筒体3を外筒体2から取り外すと、気密用筒体5が装着筒体7に嵌合した状態で引き上げられることから内部に気圧の減少が発生するが、かかる気圧の変動は、収納筒体4の内部のみでなく容器1の内部全体で生じることから、負圧によって口紅Kが引き上げられるようなことはなく、蓋筒体3の開閉によって口紅Kに折損や、天付きが発生させない。
- [0033] 蓋筒体3を外した後外装筒10と収納筒体4との間で相互に回転させると、受皿体6が収納筒体4内をガイド縦孔17に沿って上昇し、口紅Kが収納筒体4の開口面から突出される。
- [0034] また、逆の動作により口紅Kを収納筒体4内に収容したら、蓋筒体3を外筒体2に嵌

合し容器1を密閉する。尚本発明では、化粧品としては口紅に限るものではない。



## 請求の範囲

- [1] 外筒体と、  
外筒体に着脱自在に嵌合する蓋筒体と、  
外筒体の内側に該外筒体に対して回動自在に設けられた収納筒体と、  
収納筒体内に軸方向に移動自在に設けられ、外筒体と収納筒体との回動動作により該収納筒体の開口面より突出、後退される棒状化粧料とを備えた棒状化粧料繰り出し容器において、  
蓋筒体の内面に、外筒体の上部縁部に設けられた装着筒体に嵌合し気密を保持する気密用筒体を備えたことを特徴とした棒状化粧料繰り出し容器。
- [2] 装着筒体の上部外周面に、気密用筒体の下端外周面を押圧する環状突条を設け、かつ気密用筒体の下端外周面と蓋筒体内面との間に気密用筒体下端部の変形空間としての間隙を設けたことを特徴とする請求項1に記載の棒状化粧料繰り出し容器。
- [3] 外筒体と収納筒体との回動動作により棒状化粧料と一体に収納筒体内を軸方向に移動する受皿体を有し、収納筒体内で最下端に配置した該受皿体の上部とほぼ等しい高さ位置に環状突条を形成したことを特徴とした請求項1又は2に記載の棒状化粧料繰り出し容器。
- [4] 装着筒体の内方に、収納筒体の外側面に摺動自在でかつ気密に接触するシール筒体を組み付けたことを特徴とした請求項1から3のいずれか1項に記載の棒状化粧料繰り出し容器。

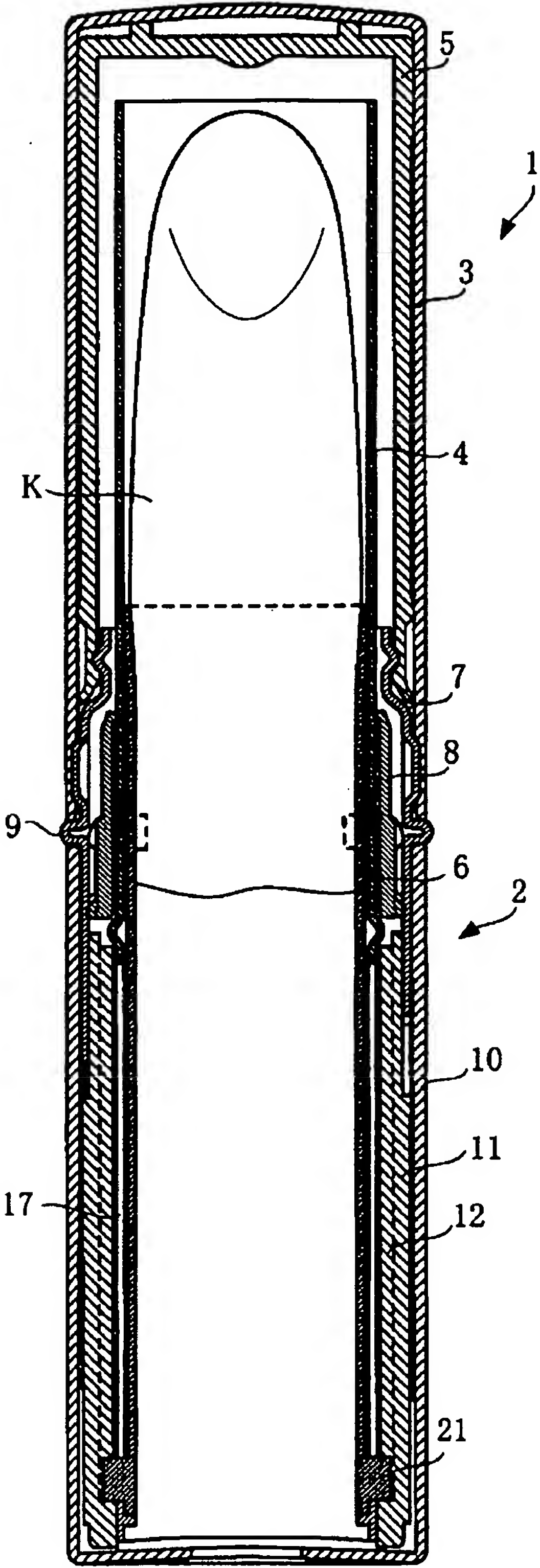
## 補正書の請求の範囲

[2005年7月8日(08.07.2005)国際事務局受理：出願当初の請求の範囲1-3は補正された；出願当初の請求の範囲4は取り下げられた。(1頁)]

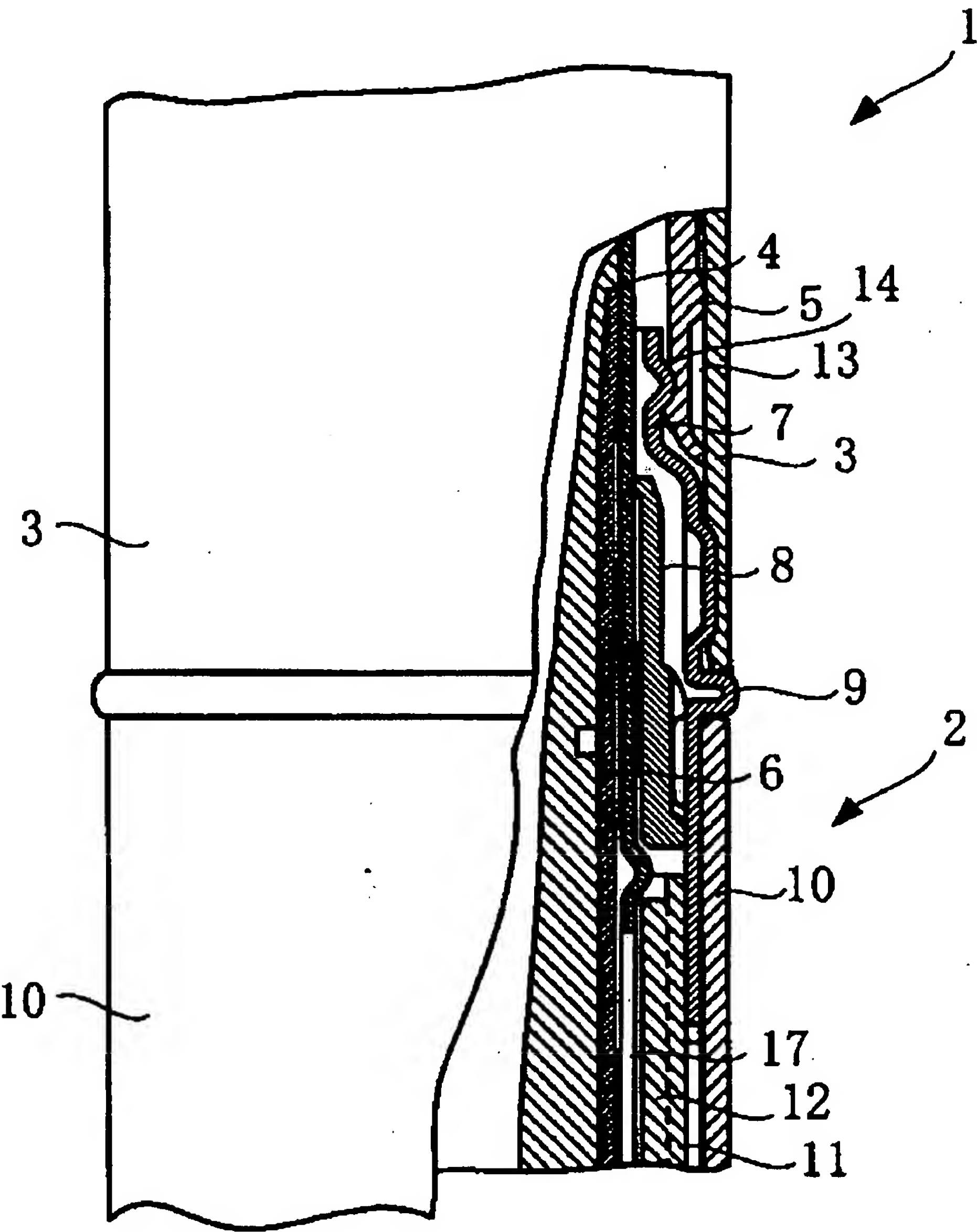
- [1] (補正後) 外筒体と、  
外筒体に着脱自在に嵌合する蓋筒体と、  
外筒体の内側に該外筒体に対して回転自在に設けられた収納筒体と、  
収納筒体内に軸方向に移動自在に設けられ、外筒体と収納筒体との回転動作により該収納筒体の開口面より突出、後退される棒状化粧品とを備えた棒状化粧品繰り出し容器において、  
蓋筒体の内面に、外筒体の上部縁部に設けられた装着筒体に嵌合し気密を保持する気密用筒体を備え、  
装着筒体の上部外周面に、気密用筒体の下端外周面を押圧する環状突条を設け、かつ気密用筒体の下端外周面と蓋筒体内面との間に気密用筒体下端部の変形空間としての間隙を設けたことを特徴とする棒状化粧品繰り出し容器。
- [2] (補正後) 外筒体と収納筒体との回転動作により棒状化粧品と一体に収納筒体内を軸方向に移動する受皿体を有し、収納筒体内で最下端に配置した該受皿体の上部とほぼ等しい高さ位置に環状突条を形成したことを特徴とした請求項1に記載の棒状化粧品繰り出し容器。
- [3] (補正後) 装着筒体の内方に、収納筒体の外側面に摺動自在でかつ気密に接触するシール筒体を組み付けたことを特徴とした請求項1又は2に記載の棒状化粧品繰り出し容器。
- [4] (削除)



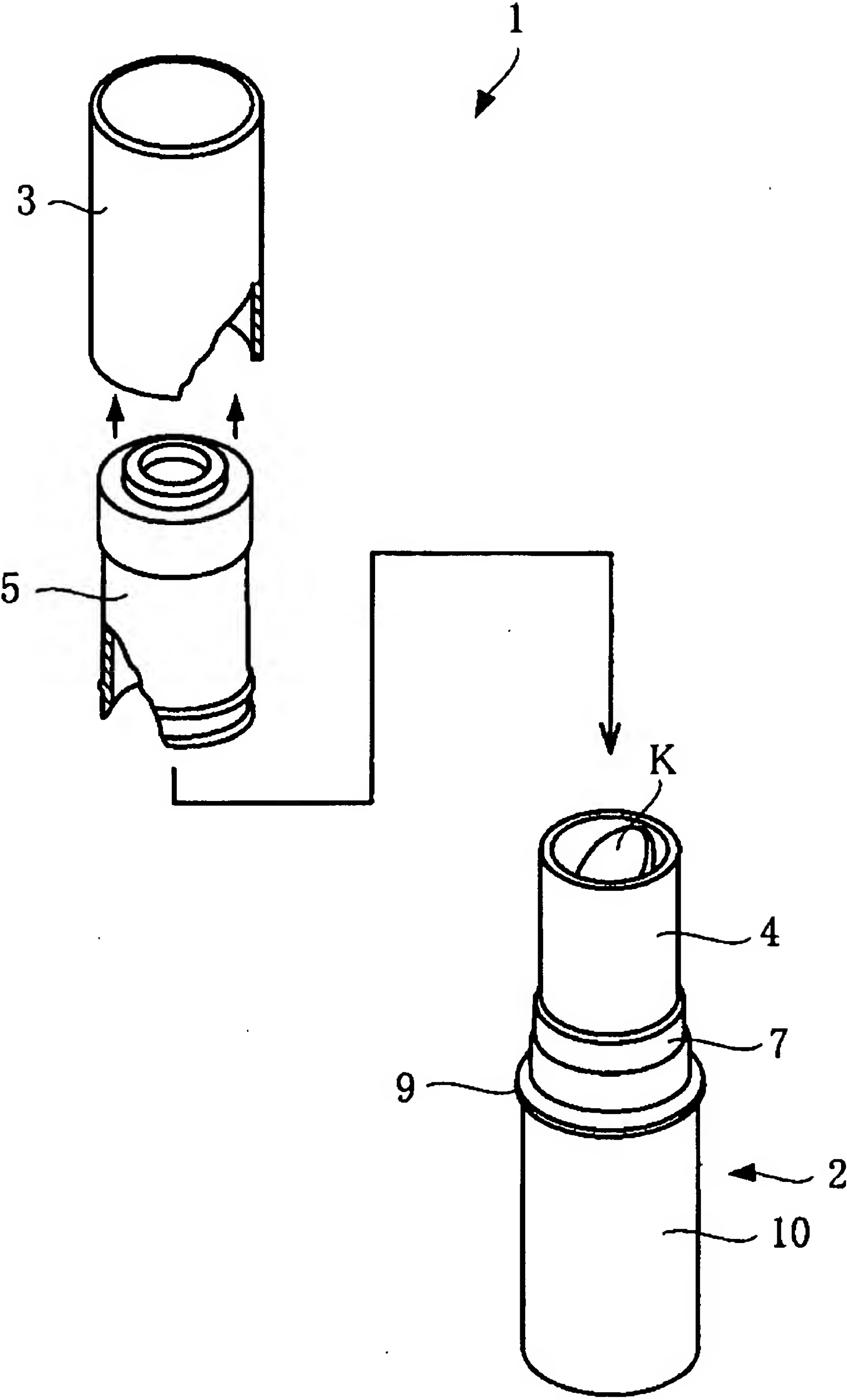
[図1]



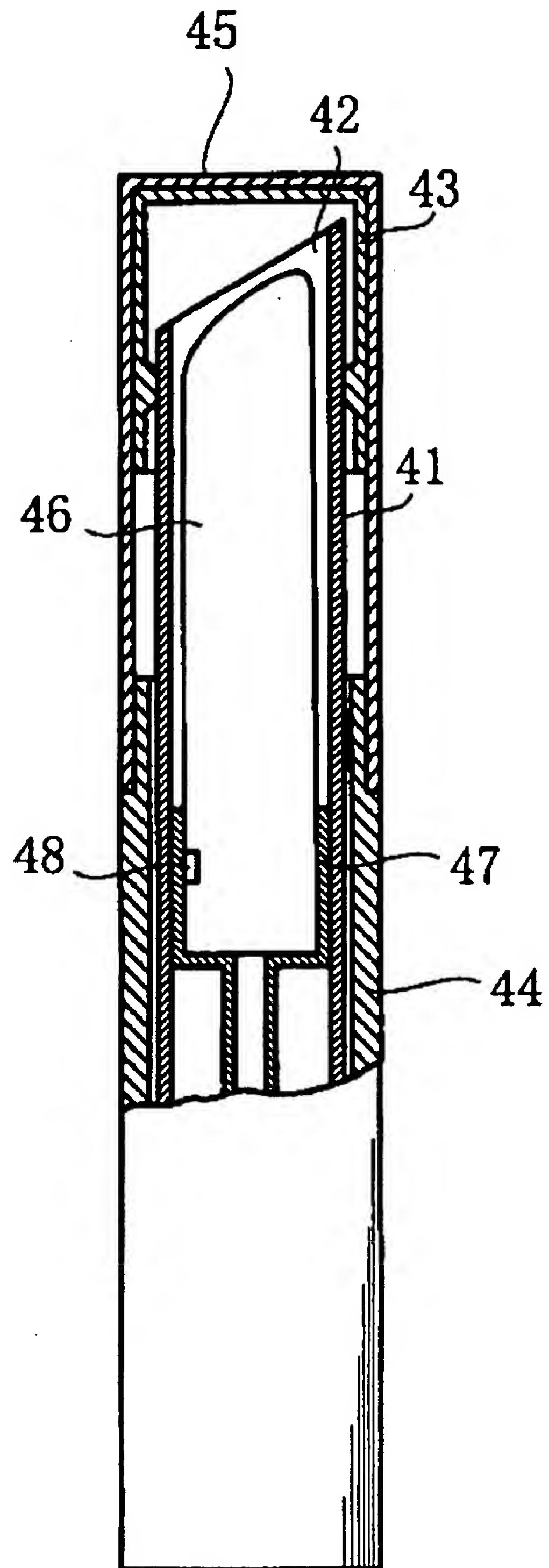
[図2]



[図3]



[図4]



## INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.

PCT/JP2005/002430

A. CLASSIFICATION OF SUBJECT MATTER  
Int.Cl.<sup>7</sup> A45D40/00

According to International Patent Classification (IPC) or to both national classification and IPC

## B. FIELDS SEARCHED

Minimum documentation searched (classification system followed by classification symbols)  
Int.Cl.<sup>7</sup> A45D40/00

Documentation searched other than minimum documentation to the extent that such documents are included in the fields searched  
Jitsuyo Shinan Koho 1922-1996 Jitsuyo Shinan Toroku Koho 1996-2005  
Kokai Jitsuyo Shinan Koho 1971-2005 Toroku Jitsuyo Shinan Koho 1994-2005

Electronic data base consulted during the international search (name of data base and, where practicable, search terms used)

## C. DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT

Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
X Y	Microfilm of the specification and drawings annexed to the request of Japanese Utility Model Application No. 92912/1986 (Laid-open No. 204512/1987) (Kabushiki Kaisha Hida Seisakusho), 26 December, 1987 (26.12.87), Full text; Figs. 1, 2 (Family: none)	1 2-4
Y	Microfilm of the specification and drawings annexed to the request of Japanese Utility Model Application No. 32038/1988 (Laid-open No. 135018/1989) (Kabushiki Kaisha Hida Seisakusho), 14 September, 1989 (14.09.89), Full text; Figs. 1, 2 (Family: none)	2-4

☐ Further documents are listed in the continuation of Box C.

☐ See patent family annex.

\* Special categories of cited documents:

"A" document defining the general state of the art which is not considered to be of particular relevance  
"E" earlier application or patent but published on or after the international filing date  
"L" document which may throw doubts on priority claim(s) or which is cited to establish the publication date of another citation or other special reason (as specified)  
"O" document referring to an oral disclosure, use, exhibition or other means  
"P" document published prior to the international filing date but later than the priority date claimed

"T" later document published after the international filing date or priority date and not in conflict with the application but cited to understand the principle or theory underlying the invention

"X" document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered novel or cannot be considered to involve an inventive step when the document is taken alone

"Y" document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered to involve an inventive step when the document is combined with one or more other such documents, such combination being obvious to a person skilled in the art

"&" document member of the same patent family

Date of the actual completion of the international search  
02 May, 2005 (02.05.05)

Date of mailing of the international search report  
24 May, 2005 (24.05.05)

Name and mailing address of the ISA/  
Japanese Patent Office

Authorized officer

Facsimile No.

Telephone No.

## A. 発明の属する分野の分類 (国際特許分類 (IPC))

Int.Cl.<sup>7</sup> A45D40/00

## B. 調査を行った分野

調査を行った最小限資料 (国際特許分類 (IPC))

Int.Cl.<sup>7</sup> A45D40/00

最小限資料以外の資料で調査を行った分野に含まれるもの

日本国実用新案公報	1922-1996年
日本国公開実用新案公報	1971-2005年
日本国実用新案登録公報	1996-2005年
日本国登録実用新案公報	1994-2005年

国際調査で使用した電子データベース (データベースの名称、調査に使用した用語)

## C. 関連すると認められる文献

引用文献の カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する 請求の範囲の番号
X Y	日本国実用新案登録出願61-92912号(日本国実用新案登録 出願公開62-204512号)の願書に添付した明細書及び図面 の内容を撮影したマイクロフィルム (株式会社飛弾製作所) 1987.12.26, 全文、第1, 2図 (ファミリーなし)	1 2-4
Y	日本国実用新案登録出願63-32038号(日本国実用新案登録 出願公開1-135018号)の願書に添付した明細書及び図面の 内容を撮影したマイクロフィルム (株式会社飛弾製作所) 1989.09.14, 全文、第1, 2図 (ファミリーなし)	2-4

☐ C欄の続きにも文献が列举されている。☐ パテントファミリーに関する別紙を参照。

## \* 引用文献のカテゴリー

- 「A」 特に関連のある文献ではなく、一般的技術水準を示すもの  
「E」 国際出願日前の出願または特許であるが、国際出願日以後に公表されたもの  
「L」 優先権主張に疑義を提起する文献又は他の文献の発行日若しくは他の特別な理由を確立するために引用する文献 (理由を付す)  
「O」 口頭による開示、使用、展示等に関する文献  
「P」 国際出願日前で、かつ優先権の主張の基礎となる出願

の日の後に公表された文献

- 「T」 国際出願日又は優先日後に公表された文献であって出願と矛盾するものではなく、発明の原理又は理論の理解のために引用するもの  
「X」 特に関連のある文献であって、当該文献のみで発明の新規性又は進歩性がないと考えられるもの  
「Y」 特に関連のある文献であって、当該文献と他の1以上の文献との、当業者にとって自明である組合せによって進歩性がないと考えられるもの  
「&」 同一パテントファミリー文献

国際調査を完了した日

02.05.2005

国際調査報告の発送日

24.5.2005

国際調査機関の名称及びあて先

日本国特許庁 (ISA/JP)  
郵便番号100-8915  
東京都千代田区霞が関三丁目4番3号

特許庁審査官 (権限のある職員)

氏原 康宏

3R

8819

電話番号 03-3581-1101 内線 3386